



癒しと健康を提供する

俵山版アルベルゴディフーズ構想

株式会社 SD-WORLD

代表取締役 藤永義彦

俵山温泉



町の湯



白猿の湯



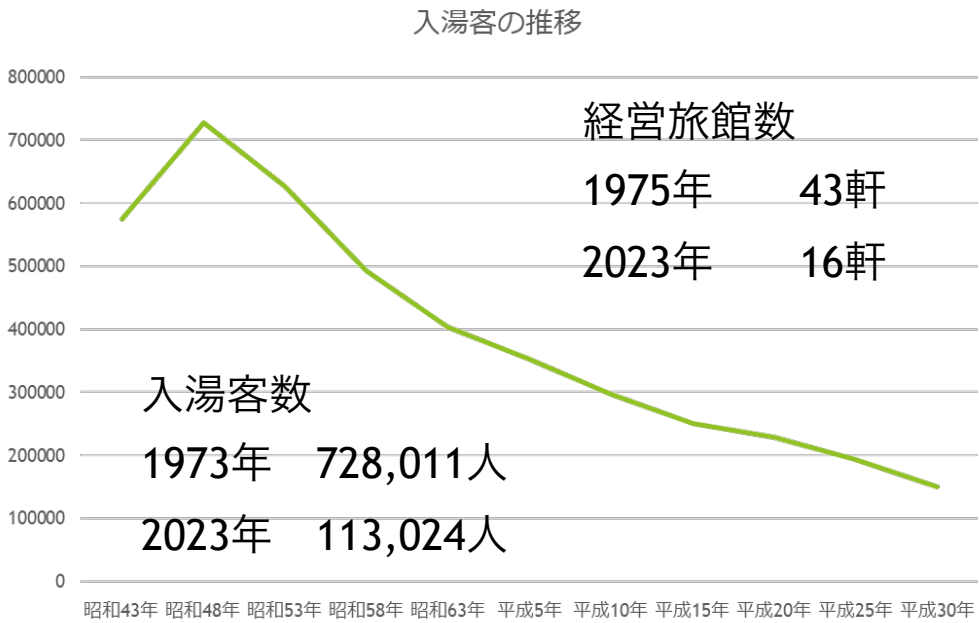
外湯文化

- ・ 16軒の宿には風呂がない。
- ・ お客さんは2か所の公衆浴場へ
- ・ 加温も加水もしない源泉かけ流し

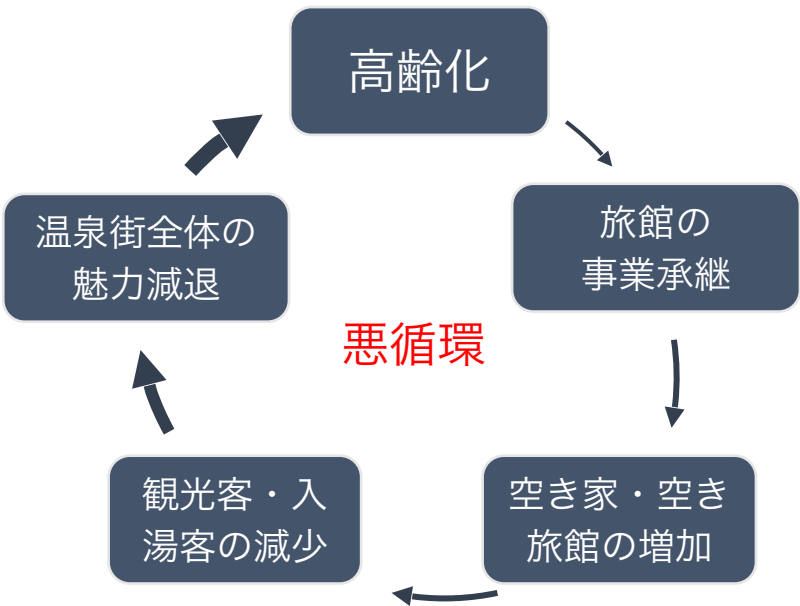
国民保養温泉地（環境省指定）

日本の名湯100選（健康と温泉F選定）

俵山温泉入湯客の推移と課題



高齢化と旅館運営における負のスパイラル



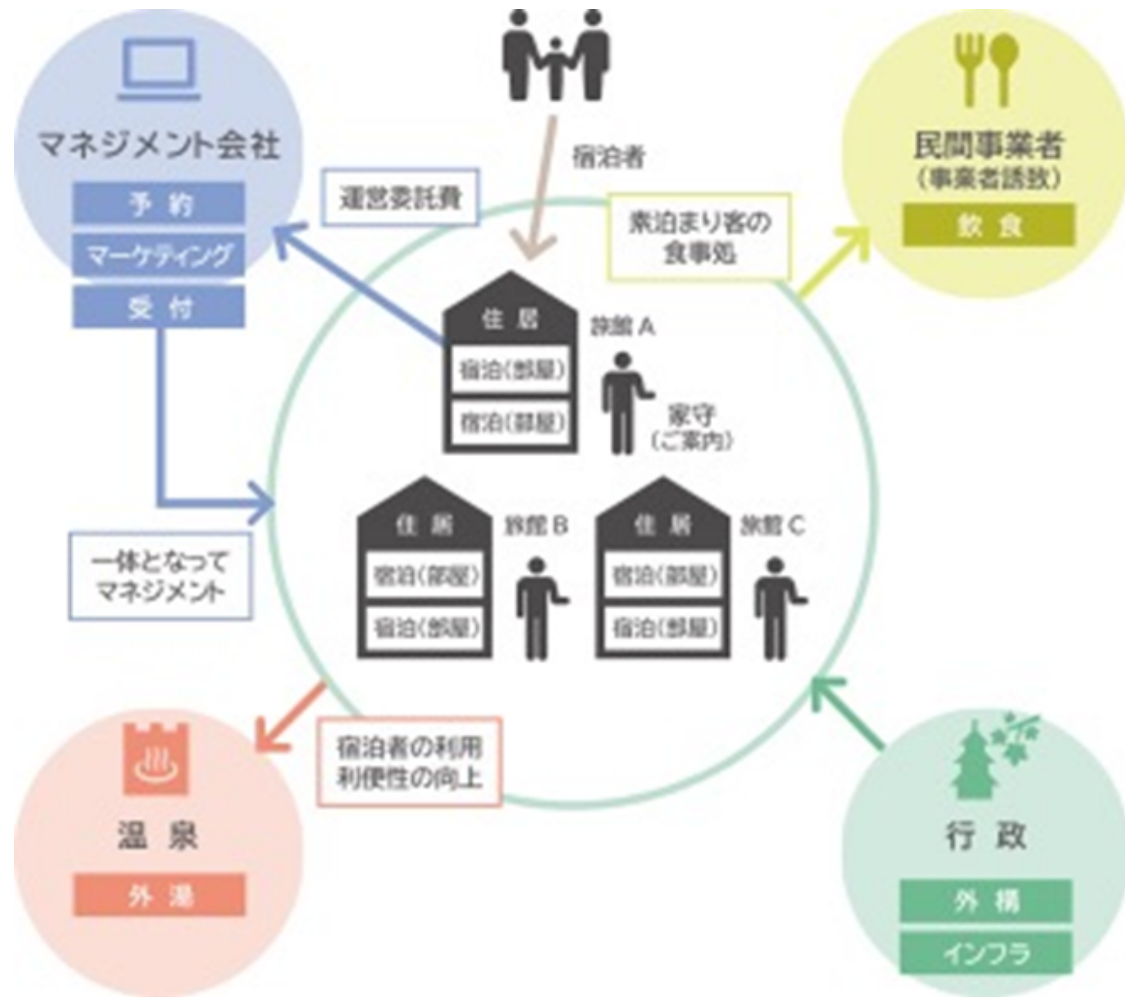
俵山温泉が抱える4つの問題点

- ・ 空き旅館や空き店舗の増加とその有効活用。
- ・ 高齢化に伴う旅館の廃業、困難な事業承継。
- ・ 経営悪化に伴う温泉施設の有効活用。
- ・ 公共的施設の老朽化（トイレ、道路、橋梁、河川）。



アルベルゴ・ディフーゾ（分散型ホテル）

「俵山温泉街活性化ビジョン」



○温泉街全体をひとつの旅館として、中心的事業者（民間）が一体的な運営

○これまでの旅館経営を行いながら、稼働していない空き部屋を有効活用

○住居と兼ねている場合であっても家守として対応

温泉地としての魅力を高め、人の流れを生み出すためのマーケティング計画
○温泉街の景観を維持し、温泉街全体の価値を高める

03

湯町そぞろ歩きゾーン

下之道に点在する空き地と熊野山公園の整備・活用

04

日帰りアクセス&ハブゾーン

街道側からのアクセスの整備・活用

02

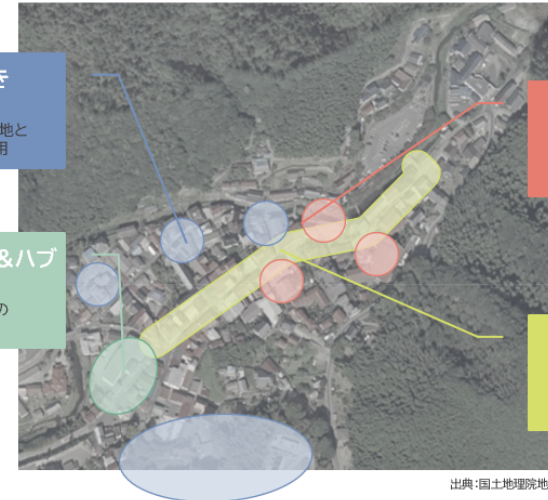
温泉&リトリートゾーン

2つの温浴施設と(旧)川の湯の整備・活用

01

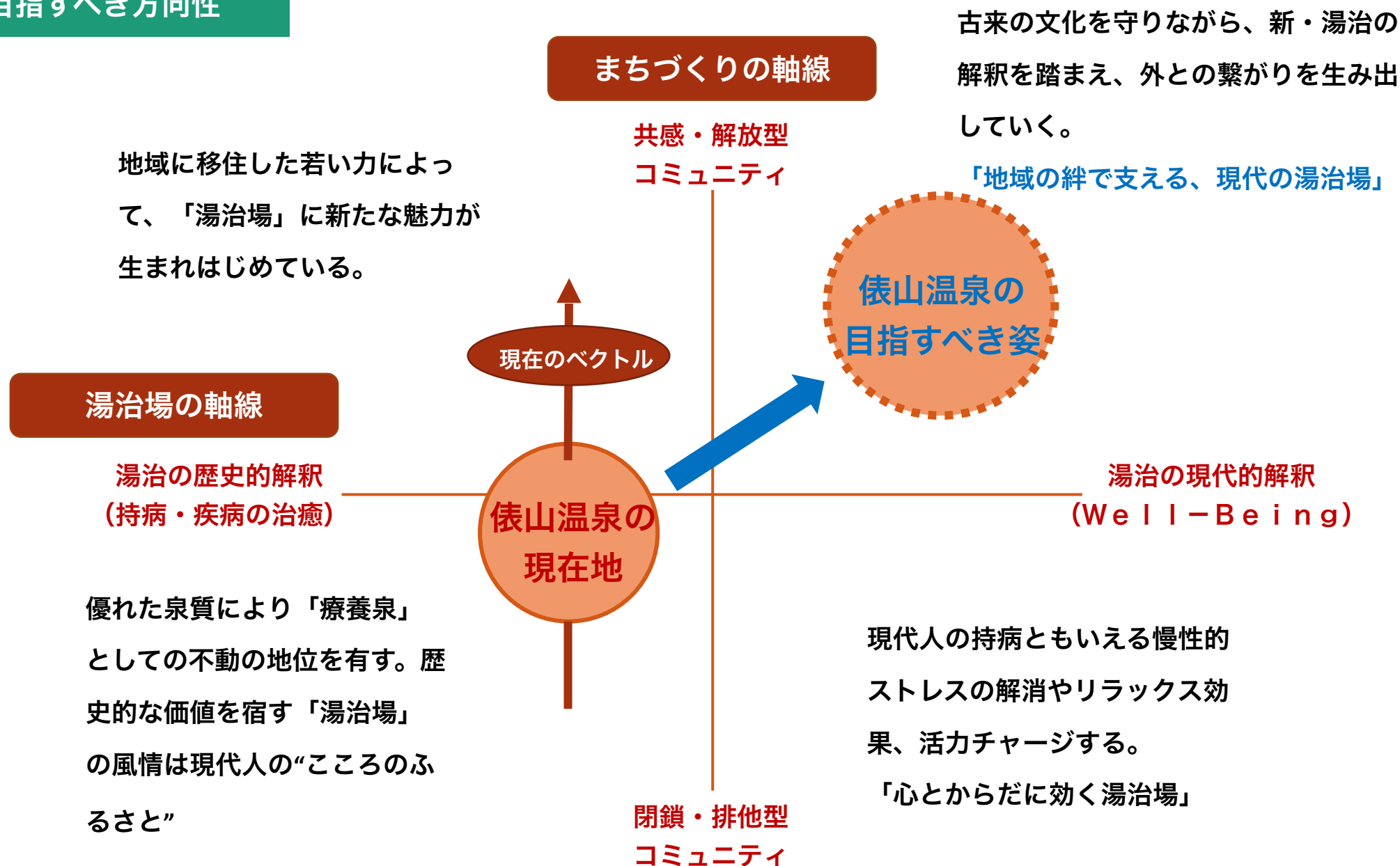
上之道ゾーン

旅館と温泉を繋ぐメインストリートの整備・活用



出典:国土地理院地図

目指すべき方向性



- ・ 当面 外科的措置を施し、温泉地としての基礎体力を取り戻す



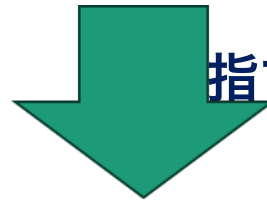
湯治場は観光地ではない

人が多く来れば良いとは違う

湯治場としての矜持は忘れない

温泉地としての誇り・文化を通じて個性的な温泉地をめざす

テーマは「癒しと健康」



(指すは健康のテーマパーク)

医療との連携

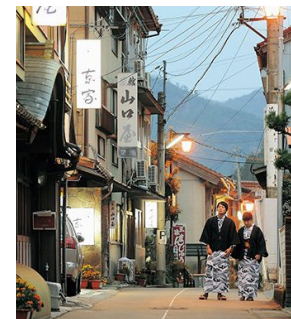
コロナにより、免疫力・養生の重要性が

湯治から新湯治 (TOJI) へ (ポストウェルネス)



調査の目的・概要

山口県を代表する温泉地である俵山温泉は、1100年前に発見されて以来、リウマチや神経痛への効用から九州四国より多くの来訪者が訪れる療養を目的とした湯治場である。本調査では環境省が提唱する「新・湯治」の様式にて滞在すること見られるリラックス効果、及び健康増進の効果に着目し、新・湯治プログラム前後における唾液中コルチゾール濃度と感情尺度の変化、及び血圧や脈拍、血中酸素濃度の指



調査の基本情報

調査実施主体	株式会社SD-WORLD
調査温泉地	俵山温泉（山口県長門市）
調査テーマ	「俵山湯治ビレッジ」の研究・開発
連携専門機関	NPO法人健康と温泉フォーラム 日本温泉気候物理医学会 専門医
調査時期	令和4年9月～令和5年2月
調査協力者	15名 (女性11名/男性4名/その他0名, 平均61.7, ±41歳)

調査結果のポイント

- コルチゾールは、交換神経優位の際に分泌される副腎皮質ホルモンで、プログラム前よりプログラム後の方がコルチゾールのわずかな上昇が見られた。
- 一方、感情尺度評価スコアにおいては、「快感情」「リラックス感」は上昇し、「不安感」

感情尺度評価スコア変化

- MCL-S.2の測定を行った結果、「快感情」「リラックス感」のスコア上昇、「不安感」のスコア低下が見られた

考察

- 感情尺度による調査は大幅な改善によって、新・湯治プログラムの効果が一定程度証明された。これらは、温泉の温浴効果に加え、文化や季節を感じるプログラムの効果であると考えられる。

